



タスカル情報 59 号

発行日 2020 年 12 月 7 日
発行者「タスカル」推進委員会
編集 代表 長谷川幹夫

タスカル座談会実施報告特集号

タスカル情報 58 号でお知らせしましたように、本 59 号は特集号とし、2020 年 11 月 15 日に実施されました、新型コロナウイルス感染症をテーマとする、タスカル座談会の内容について報告します。

座談会内容：新型コロナウイルス感染症

日時：2020 年 11 月 15 日(日) 午後 1 時～2 時 15 分

場所：緑園地域交流センター 中会議室

ゲスト：斎藤昌代様 (泉区福祉保健センター 福祉保健課長) 他 2 名

参加者：タスカル推進委員会メンバー 9 名



まあ姉こと斎藤様

座談会次第

ミニ講演：コロナに負けるな!! から コロナと一緒に 斎藤様

座談会：新型コロナウイルス感染症

タスカル座談会では、まず、斎藤様にミニ講演をしていただき、その後に、いくつかのテーマについて座談会を行いました。以下、ミニ講演会および座談会の内容について報告させていただきます。

ミニ講演：コロナに負けるな!! から コロナと一緒に

○ 感染症の推移と濃厚接触

感染してからの発症のピークですが、最近は 4～5 日程度に感じられます。また、感染者が他者に感染させるピークは、発症前の 1～2 日程度になります。感染の 85%以上が発症者からの感染であり、環境からの感染は 10%程度です。不特定多数の者が触れた物に触った場合は手洗いが肝要で、手洗いの前にその手で目等の粘膜に触れない(擦らない)ことが重要です。

○ 感染リスクが高まる「5つの場面」

5つの場面とは、①飲酒を伴う懇親会等、②大人数や長時間に及ぶ飲食、③マスクなしでの会話、④狭い空間での共同生活、⑤居場所の切り替わり(仕事での休憩時間等)、となります。特に、場面⑤の居場所の切り替わりといった、ちょっとした気の緩みが発生する場面にも注意してください。

○ 新型コロナウイルス感染症にかかったら

疑わしい症状が出たら、まずは、かかりつけ医や近所の医院等に電話で相談した上で、指示に従い診察を受けることが重要です。医師会所属の医師は、検査等が必要と判断したら、適切な検査機関等のチャネルを持っていますので、その指示に従った対応をすることが重要になります。

○新型コロナウイルス感染症の後遺症

世界各国でさまざまな分析をしていますが、一定の割合で完全に回復せず、症状が続く後遺症があることが分かってきました。主には、倦怠感や呼吸苦、胸痛などですが、肺や心臓に長期的な影響が残ることがあり、高齢者や基礎疾患のある方に多いですが、若い健康な人でも見られることがあります。

○新型コロナウイルス感染症は怖い病気なのか

致死率については減少傾向であるものの10月の厚生労働省の発表では、60歳以上では8.5%が重症化し、5.7%が死亡している状況です。

○インフルエンザとの違い

インフルエンザ感染者は毎年推計で1,200万人以上と言われていますが、このインフルエンザを原因とする肺炎で約1万人が死亡していると考えられています。死亡率は約0.1%です。

新型コロナとインフルエンザの症状はよく似ており、症状から判断するのは難しく、医療現場での課題になっています。そのため、インフルエンザのワクチン接種をお勧めします。ワクチン接種後抗体ができるまでに、約一か月必要なことから早めに接種していただきたいと思います。

○活動の再開にあたって

コロナ禍にあっても地域住民の交流の場である地域活動としての「通いの場」の継続的推進は止めてはならないものと考えています。再開にあたっては、その活動の目的や対象者を改めて確認し、「新しい生活様式」を踏まえ、場所を変える、参加対象を明確にする等、そのやり方について工夫し、主催者も参加者も納得した形で活動を再開することが重要です。

地域のイベントの開催については、主催者の判断により行っていただいておりますが、感染予防についてのご相談は承っております。現在、公共施設の利用も感染予防策を取ったうえで、利用制限はほぼ解除されていますので、再開を検討する時はお気軽にご相談ください。

座談会：新型コロナウイルス感染症

以下では、座談会において得られた新型コロナウイルス感染症に関する情報について報告しますが、上記のミニ講演で既にご説明があった点については省いてあります。

○依然として感染経路不明が60%近くある点について

感染経路の不明者の数には調査中のものも含まれています。一般的に感染経路が最初から判明している方は濃厚接触者のみとなります。また、調査によりその後明らかになる方や感染経路が確定に至らなくても、感染した場面が推測される方が8割～9割以上です。

○ドアノブ、エレベーターボタン、吊革、トイレ温水洗浄器、サウナ等からの感染リスク

例示されている施設については、それぞれのリスクが個別に判明しているものはなく、ほとんどが条件に依って変化してしまうものばかりです。それらのものに触れることを避けるのではなく、触れたときは、必ず手を洗う、消毒することが大事であり、手を洗う前に、口、鼻、目に触れないことが大切です。

○コロナへの湿度の影響および冬季に向かったの対策（換気の仕方や加湿器の利用など）

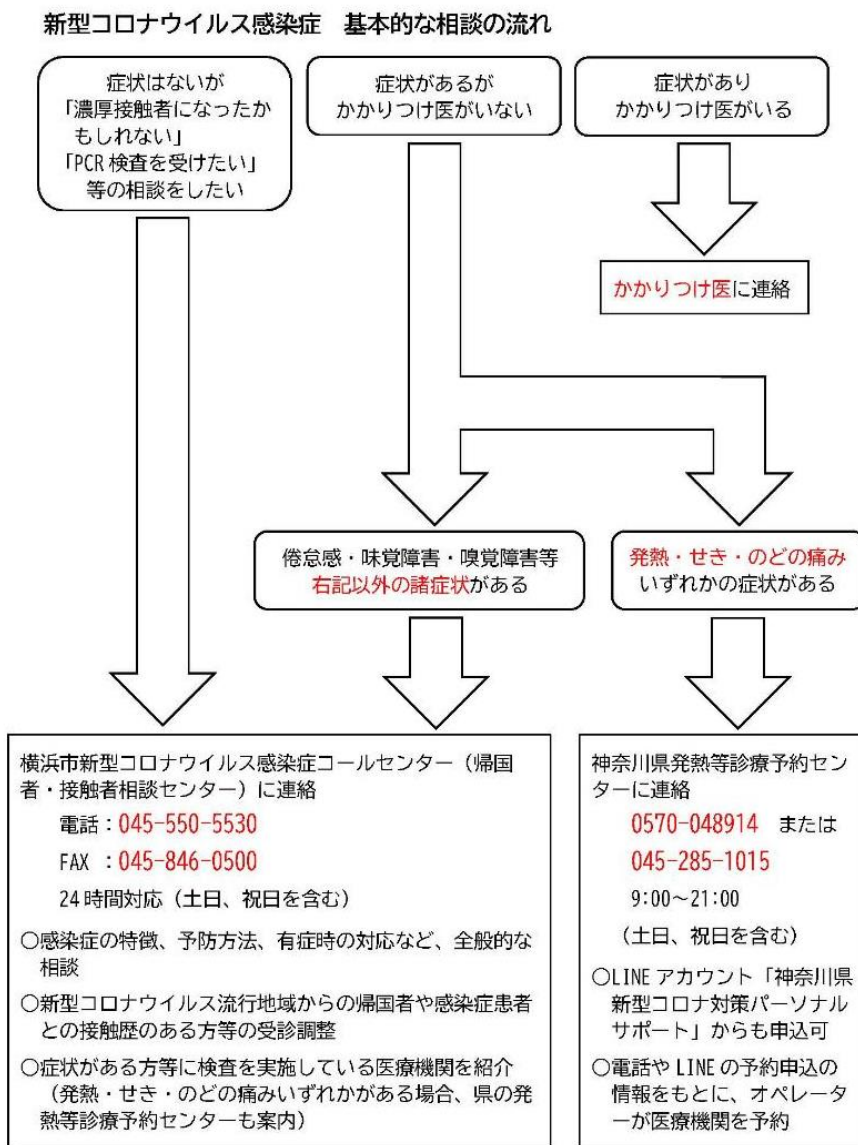
湿度や紫外線などの環境に依るウイルスへの影響を考慮するより、衛生上の対策が一番流行を抑えられるとされています。ミニ講演で説明しました「5つの場面」への対応や、手洗い、マスク、咳エチケット等の方法で感染予防をしていくことが大切です。

○感染予防に関する誤った認識（マスメディア等で伝えられた過大もしくは誤った認識の例）

私の知る範囲ですが、一般的な感染予防については、マスメディアでの報道で、過大に誤っていると感じたこと、気づいたことはありません。しかし、研究途中の成果が紹介された時などは、受け止める側も期待値が高くなり、誤解して受け取ることもあるかと思います。また、SNSでの拡散は無責任なものも多いと聞いていますので、ご注意くださいと思います。

○発熱や激しい咳などでコロナ感染を疑った時の相談窓口

症状が出たら、かかりつけ医もしくは近医に、まずは電話で相談してください。以下に、横浜市ホームページより引用した流れ図を示します。



※上記に関わらず（特に夜間・休日）症状が重い、徐々に悪化している等

緊急の場合 → 119（救急車を依頼）

参考：横浜市新型コロナウイルス感染症コールセンターのウェブサイト URL

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/yobosesshu/kansensho/ncov-soudan.html>

○病院に歩いて行けない場合の公共交通機関の利用

他の手段がなくやむを得ない場合は、マスク等の他者への感染防止策の上、公共交通機関をご利用ください。

○検査の結果「陽性」の連絡があった場合の対応

保健所から連絡がありますのでその指示に従ってください。入院が必要な場合には、移動手段を含め保健所で手配します。

○感染者(および感染対策)への理性的で寛容な地域社会の醸成

人は知らないことについて恐れを抱いたとき、それを排除する行動をとってしまうことがあります。これは新型コロナウイルスに限ったことではなく、他の感染症についても過去に多くの人権問題がありました。横浜市としても啓発を行っており、泉区でも、まずは、多くの皆さんに正しい知識をお届けするようにあらゆる媒体、場面で情報を発信しています。今回の私のように各地域に出向いてお話をさせていただいているのもその一環です。

○窓のない会議室での会議

参加者がマスクをしても、密閉状態になっていますので、30分に1回程度、5分以上、できれば対面でドアを開放し、空気を入れ替えてください。みんなが席を立ち移動することにより空気の流れが起きますので、工夫してみてください。

○横浜市の受入れ可能空き病床数や ECMO の空き数といった医療機関のひっ迫度

空き状況については毎日変動していますので、ここでは申し上げられませんが、横浜市内には、中等症・重症者のベッドが500床確保されており、人工呼吸器が303台、ECMOが32台あります。しかし、数には限りがありますし、徐々にひっ迫してくることが予想されますので、みんなで流行を抑えていくことが大切です。



■ お問い合わせ先・新規会員お申込先 ■

yoio-1027@55.catv-yokohama.ne.jp

090-2621-5195 (担当 岡部)

タスカル会員募集中です！

- ・「タスカル」は緑園のどなたでも参加できるコミュニティ！
- ・会員相互の「ふれあい」「仲間づくり」「助け合い」「地域活性」！
- ・目的は緑園での生活を少しでも快適にすること！
- ・定期的に講演会や各種イベントを実施！
- ・個人年会費：500円！

緑園タスカル

検索



入会ご希望の方は上記申込先に気軽にお問い合わせください！